

2. 論文発表

無 し

3. 学会発表

- 1) 前田ひとみ, 山下友也: 思春期ピアカウンセリングの普及に関する研究ーピアカウンセラーのサポートの現状と課題ー, 第14回日本健康教育学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定

- 2) 渡辺純一, 前田ひとみ, 石田登喜子, 橋本充代, 高村寿子: 思春期の性=生の健康教育(4)ーピアカウンセリング活動支援システムの構築ー, 第24回日本思春期学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定

F. 知的財産権の出願・登録状況
なし。

表1 対象者の属性

属性1				属性2			
項 目		人	%	項 目		人	%
年 齢	18 歳	1	1.5	学 年	1 年	2	2.9
	19 歳	3	4.4		2 年	14	20.6
	20 歳	28	41.2		3 年	38	55.9
	21 歳	27	39.7		4 年	12	17.6
	22 歳	6	8.8		不明	2	2.9
	23 歳	2	2.9		合計	68	100
	24 歳	0	0	専 攻	看護	61	89.7
	25 歳	0	0		介護	0	0
	26 歳	0	0		教育	1	1.5
	27 歳	1	1.5		その他	5	7.4
	28 歳	0	0		不明	1	1.5
	合計	68	100		合計	68	100
性 別	男性	5	7.4	活 動 年 数	1 年未満	11	16.2
	女性	63	92.6		1 年以上 2 年未満	24	35.3
	合計	68	100		2 年以上 3 年未満	24	35.3
学 校	大学院	1	1.5		3 年以上 4 年未満	9	13.2
	大学	53	77.9		4 年以上	0	0
	短期大学	6	8.8		合計	68	100
	専門学校	8	11.8	養 成 (複数回答)	全国	17	25
	その他	0	0		自治体主催	40	58.8
	合計	68	100		伝達講習	3	4.4
					未受講	2	2.9
					不明	13	19.1

表2 思春期ピア活動にあたって困ったこと、悩んだこと（複数回答）

	困ったこと、悩んだこと	(人)
ピアカウンセラーの力量不足	知識不足	46
	（性に関する知識）	26
	（カウンセリングの知識）	25
	ピアカウンセリングスキル不足	4
	対象との関わり	32
	活動がマンネリ化	1
	外国人と話すときの英語力	1
	準備不足	1
思春期ピアに対する悩み	自分の活動や方法論が正しいのか	22
	思春期ピアカウンセリングの効果について	9
	活動の目的についての悩み	1
依頼者の理解不足	活動における資金不足	7
	依頼に対応しきれない	5
	活動が単発的である	1
思春期ピアへの理解不足	周囲の大人のピアに対する理解が無い	29
	周囲がピアについて興味を示さない	5
	学校（教師）の性に対する理解が乏しい	3
	ピア活動に大人が介入してくる	3
	男子の受講者が少ない	2
	ピアの関心度に地域差がある	1
	学校はピアの受け入れが良くない	1
	ピアサポーターとの関係	1
メンバー内での問題	メンバーの意思統一ができない	13
	メンバーのプログラムの理解不足	8
	メンバーの資質不足	5
	活動できるメンバーが少ない	4
	在学する学校が別々	3
	男子が少ない	2
	指導者と意見が対立する	1
	ピアが途中で辞めていく	1
他	他団体との交流がない	1

表3 活動するに当たって欲しいサポート（複数回答）

サポート源	(人)	サポートの内容	(人)
メンバー	26	ピアカウンセリングについてもっと勉強してほしい	10
		悩んでいる仲間や自分の相談にのってほしい	10
		活動にもっと積極的になってほしい	5
		ピアカウンセリングについてもっと話したい	3
		ピア活動で学んだことを自分にも活かしてほしい	3
		もっとメンバーがほしい	2
		時間調整を上手くしてほしい	1
		目的意識をしっかりと持してほしい	1
		性教育以外のプログラムも作りたい	1
指導者	13	資金を稼いで、研修などに行かせてほしい	11
		もっと自分たちと意見を交わしてほしい	7
		フォローアップしてくれる方がいてくれると良い	2
		指導力をつけてほしい	2
		満足している	1
保健所	26	資金面でもっと補助してほしい	18
		宣伝活動をもっとしてほしい	3
		保健師ともっと意見交換したい	3
		ピアカウンセラーのことも考えて依頼してほしい	2
		広い会場を使わせてほしい	2
		継続した活動ができる依頼がほしい	2
教育委員会や 小・中・高校	39	性教育にもっと積極的になりピア活動を理解してほしい	38
		高校生との会話中に上から覗き込んだり聞き耳を立てたりしないでほしい	13
		学年単位でなく個人に寄り添える規模で依頼してほしい	11
		教師の性教育に対する理解がほしい	7
		ピア活動を行う十分な時間がほしい	2
		性教育に対する各学校や各団体の考え方を示せるシステムがほしい	1
		学校にもう少し入れるよう配慮してほしい	1
		資金補助	1
		ピアカウンセリングに興味を持ってくれるよう働きかけてほしい	1
その他の サポーター	他団体 33	交流を深め、意見を交換したい	33
		合同でピア活動を行いたい	12
		評価するような組織があればよい	1
	在学する 学校 2	時間が足りないので、ボランティアの一環として特別免除してほしい	2
		寄付をしてもらって研修会などに行かせてほしい	1
	メディア 1	ピアを広めてほしい	1
	地域住民 1	ピアカウンセリングのことをもっと知ってほしい	1

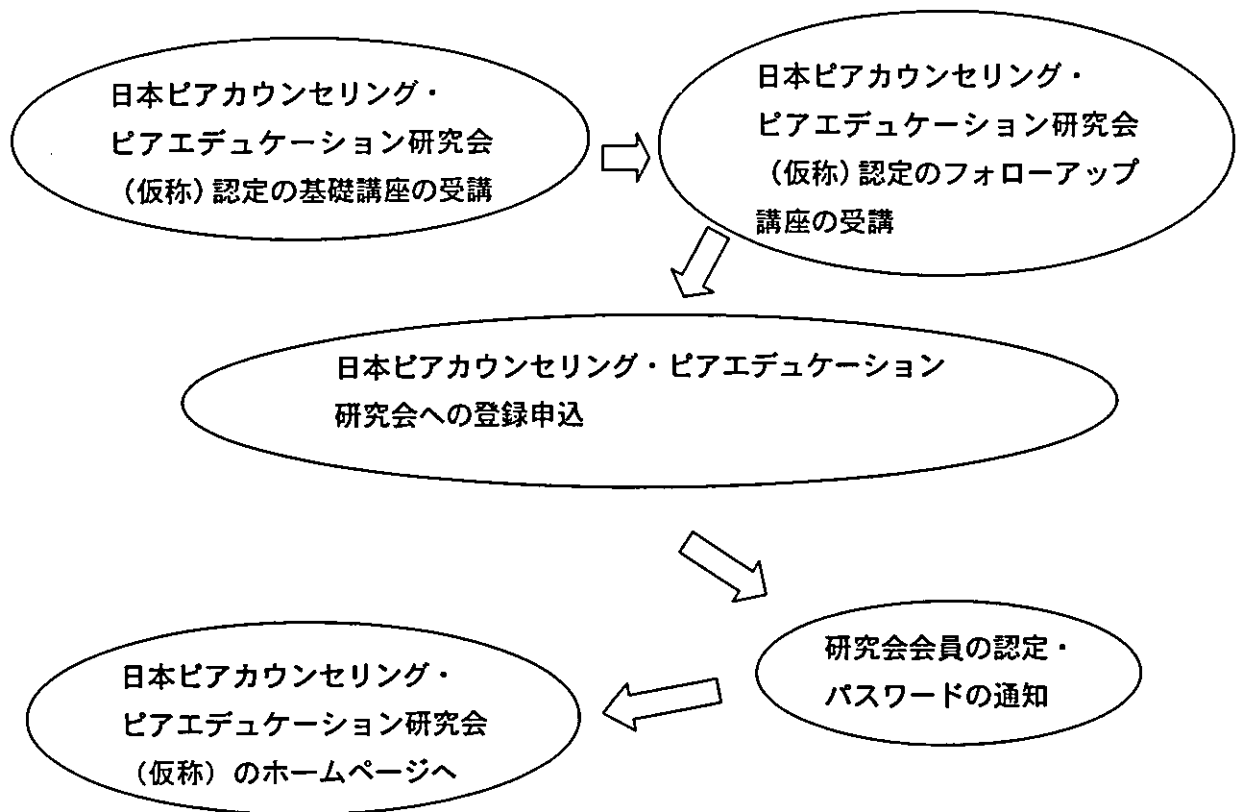


図1 日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会（仮称）の会員登録とホームページへのアクセスまでの流れ



図2 研究会の設立とインターネットによる交流のメリットおよびデメリット
(ピアカウンセラーの場合)

ピアカウンセラー全国ネットワーク申込書

申込日 年 月 日

これを作ろうとしたきっかけは、「4日間一緒に過ごしたメンバーが養成講座が終わったらあえなくなってしまうのは残念だね。」という受講生全体の話や、実際にピアカウンセリングを作っている過程で、「自分はピアカウンセラーに向いていないのではないか」、「実践でどのようにやったらよいのか分からない」などの壁にぶつかることがあり、その壁を乗り越えていくには自分達だけで悩みを抱えているのではなく、ピアカウンセラー同士が相談できる、そのような場所が必要である、との理由からです。

参加したいと思う人はYESに○を書いて下さい

YES

NO

ふりがな

お名前

所属

TEL ☎

携帯

パソコンのアドレス

携帯のアドレス

(資料2)

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会（仮称）のホームページ
（工事中）

日本ピアカウンセリング・ ピアエデュケーション研究会

ピアカウンセリング・
ピアエデュケーションとは

会の活動・組織

会則

研修会情報

関連リンク

会員ページ

電子メール



このホームページは、ヘルスプロモーションの理念をふまえた健康教育手法であるピアカウンセリング、ピアエデュケーションの実践の普及と定着ならびに研究を目的とし情報を公開します

2005/5/15 日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会
発足予定です。

2005/5/31 当ホームページ開設予定です。

〒329-0498

栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-159
自治医科大学看護学部内

電話番号・FAX番号:0285-58-7425

ピアカウンセリング教材に関する評価

— 高校生の教材ニーズ調査 —

分担研究者 中出 佳操 北海道浅井学園大学人間福祉部

前田ひとみ 宮崎大学医学部看護学科

高村 寿子 自治医科大学看護学部

研究協力者 橋本 充代 獨協医科大学公衆衛生学講座

石田登喜子 福島県立医科大学看護学部

これまでにピアカウンセラー養成講座で活用されている教材と中・高生のニーズとの整合性を調べるため、養成講座を開催した地域の受講生及び非受講生を対象に、自記式無記名式のアンケート調査を行った。その結果、受講群では非受講群と比較して、妊娠・性感染症を身近に感じている者、相手とセックスについて話し合うことができる者が有意に多いことが明らかになった。また、養成講座で用いられている教材及び方法は、対象者のニーズにほぼ合致していることが示唆された。今後も継続的にニーズ調査を行うことにより、対象者により有効な教材・方法を作成する可能性が示された。

キーワード：ピアカウンセリング、ニーズ調査、性教育、教材

A. 目的

これまでにピアカウンセラー養成講座で作成・活用されている教材と、対象者である中・高校生のニーズとの整合性を調べ、教材の有効性を検討することを目的とする。

B. 方法

ピアカウンセラー養成講座を行った各教育機関の養護教諭及び地域保健所の担当者を通じて、性教育の教材希望に関する自記式無記名式のアンケート調査を行った。アンケート調査票は、第1稿を作成、プリテストを行った後、計4ページ、22題の質問からなる最終版を作成した。回答の所要時間は約5～10分である。調査期間は平成17年2月であった。

(倫理面への配慮)

調査の内容は性に関するものであり、個人情報保護のため調査票はすべて自記式無記名とした。調査票表紙には本研究の目的及び個人情報保護を記載し、回答を拒否する権利のあることを明記した。

解析を行い、頻度の有意差には χ^2 検定を用いた。

C. 結果

アンケートは、受講群287名、非受講群413名、計700名に配布・回収した。回収率は100%であった。

対象者の内訳は、男子31.0%、女子69.0%であった。男子の割合は、受講群34.1%、非受講群28.8%であったが、2群間に有意差は認められなかった(表1)。

対象者の学年は、中学2年から高校3年生まで、受講群では高校2年生が44.9%で最も多く、非受講群では高校1年生40.2%で最多、次いで高校2年生が37.5%を占めていた。居住地区は、調査対象となった7県、栃木県、佐賀県、沖縄県、秋田県、岩手県、宮崎県、福島県が挙げられたが、受講場所と異なる居住県(群馬県、長崎県)を回答した者が2名いた(表1)。

アンケート調査の結果、受講群では非受講群と比較して、自分について考えたことがある者が有意に多く ($p<0.01$)、自分のよいところをあげられる者が多い傾向 ($p<0.1$) であった (表 2-1)。しかし、自分を理解する方法、自分の将来について考えたことがあるかどうか、将来について考える必要性、身体の性とところの性について考えたことがあるか、及び性のオリエンテーションの既知度について、受講群・非受講群の間に有意な差は見られなかった。しかし、性の 3 つの特質に関してさらに学習する必要があるかどうかという設問に対して、受講群では 45.6%、非受講群では 32.2% と有意な違いが認められた (表 2-1)。

また、『好き』という気持ちと『セックスしたい』気持ちに関して、半分の対象者が関係あると回答した。

自分あるいは自分の相手が妊娠するかもしれないと考えたことがある者の割合は、受講群 42.9%、非受講群 35.3% と、受講群が有意に高い割合を示した。さらに、妊娠を身近に考える具体的な方法として、受講群・非受講群ともに体験談が最も多かった。2 群間で有意差があったのは、妊娠をしたらどうするかを仲間で話し合う方法で、受講群では約 4 割が選択していた (表 2-1)。

自分が性感染症にかかる可能性があると思う者の割合は、受講群は非受講群と比較して有意に高かった (表 2-2)。性感染症を身近に感じる方法として、妊娠と同様、受講群・非受講群ともに体験談が最も高かった。また、感染したらどうするかを話し合う、感染過程をゲーム等で学ぶ方法は、受講群で有意に回答数が多く、一方、映画・テレビは非受講群で有意に多かった (表 2-2)。

相手とセックスについて話し合える者は、非受講群より受講群で有意に多かったが、セックスに関して自分の気持ちを伝えられる者は、受講の有無に関わらず約 6 割の者ができると回

答した。セックスについて話し合うのに必要なこととして、相手の話を聴く、相手の立場になって考える、好きという気持ちについて考える、というのが上位を占めた。

もっと学びたい内容として、人間関係づくり、自分自身について、将来の人生について等が多かった。非受講群では、コンドームについて学びたいと答えたものが、受講群より有意に多かった (表 2-2)。

D. 考察

アンケートの回答者数とし、学校形態別では男女共学、学年では高校生特に高校 2 年生、居住地区としては栃木県が多数を占めているが、いずれにおいてもサンプル数から見て傾向を示す範囲と考える。その中でも、ピアカウンセリング講座の受講生と未受講生間で、有意差が見られた項目について考察する。

一点目は、受講してみて初めてそのことが深く理解でき、且つ学習の必要性を感じている項目である。それは「性の 3 つの特性についての学習の必要性」(表 2-1) についてである。受講生の多くは今までの性教育がセックス教育中心であったと考えるが、ピアカウンセリング講座の中で、初めてセクシュアリティの概念に触れ性教育の目指すものを確認しその必要性を強く感じたものと思われる。

二点目は受講として、自ら体験してみて効果的なものであると実感したと思われる項目である。「妊娠」や「性感染症」など周囲に問題を抱える仲間がいるにもかかわらず、自己の問題として捉えようとしないう若者が多い中で、自己の問題として考える手段として、「妊娠したらどうするかを話し合う」「感染したらどうするかを話し合う」という項目に有意に差が見られたことは、体験を通し始めて得られるものであることいえる。特にピアカウンセラーとの話し合いは、自由な発言の場であり、どのような発言に対しても認め合うところから、更なる話

の深まりが見られるところに特徴がある。そのような体験を通し、受講生は充実感や達成感を味わってゆくものと思われる。主体的に話し合いに参加することで、テーマとなっている問題に対しても自己の問題として考えることを可能にするものと思われる。

また、ピアカウンセリングのプログラムの最初は、エンカウンターなどのエクササイズを活用しながら、自己理解や他者理解を深めることから始まる。それらの活動を通し、「相手の話を聞くこと」や「相手の立場になって聞くこと」を体験し始めて自己に向き合う機会を得る。このことは人間関係形成に必要不可欠なものであり、性に関しても根底は人間関係作りであることが理解できたと考える。

三点目の受講生と未受講生の相違点として、今後学習したい内容についてである。「自分自身について」「マスターベーション」「コンドーム」に有意差が見られた。「自分自身について」は未受講生にその割合が多く、思春期にある若者は、性についてもアイデンティティ探しをしていることが分かり、話し合ったり考える機会が必要であることが伺える。「マスターベーション」は受講生が未受講生より多く希望し、「コンドーム」は未受講生が受講生より多いということから、今の若者が具体的なことについて学びたい欲求が強く出ていることを意味している。マスターベーションについては受講により誤った認識が払拭でき学習の必要性を感じたものと思われる。コンドームについては、具体的な教育をされていない現実があり、生徒のニーズのずれを感じるところである。

全体として非受講生と受講生で大きく異なる点は、性の捉え方であり、エンカウンターなどのエクササイズなどを体験し人間関係作りを基本を身につけることができたところにあるといえよう。

以上ピアカウンセリング講習に当たり、講習会自体が効果的であることが示唆されたと同

時に、系統立てた教材が必要であることが明らかになった。

今後の課題として、受講生のニーズにあった教材であることが大切であることから、常に若者の視点に立ったニーズ調査を行い教材作りに反映させていく必要があると考える。また、今後このような調査を継続することで今回のサンプル数の少なさや地域的な偏りの問題も解消できるものと思われる。

E. 結論

これまで作成・活用されているピアカウンセラー養成講座用教材と、対象者である中・高校生のニーズとの整合性について、アンケート調査を用いて検討した結果、ほぼ妥当であることが明らかとなった。今後、継続的に対象者にニーズ調査を行うことにより、教材の有効性を維持する可能性も示された。

F. 健康危機情報

無 し

G. 研究発表

1. 論文発表

無 し

2. 学会発表

- 1) 橋本充代, 中出佳操, 前田ひとみ, 石田登喜子, 高村寿子: 思春期の性=生の健康教育(2)ーピアカウンセリング手法による性教育受講生(中・高生)の方法及び教材に関するニーズ調査ー, 第24回日本思春期学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定.

H. 知的財産権の出願・登録状況

な し

表1 対象者の属性

		受講群 (N=287)	非受講群 (N=413)	p-value
性別	男	98 (34.1%)	119 (28.8%)	N.S.
	女	189 (65.9%)	294 (71.2%)	
学校形態	男子校	5 (1.7%)	6 (1.5%)	N.S.
	女子校	42 (14.6%)	74 (18.0%)	
	男女共学	240 (83.6%)	332 (80.6%)	
学年	中学2年	0 (0.0%)	41 (9.9%)	<0.001
	中学3年	28 (9.8%)	11 (2.7%)	
	高校1年	72 (25.3%)	166 (40.2%)	
	高校2年	128 (44.9%)	155 (37.5%)	
	高校3年	57 (13.9%)	40 (9.7%)	
居住地区	栃木県	124 (43.2%)	166 (40.2%)	<0.05
	佐賀県	52 (18.1%)	50 (12.1%)	
	沖縄県	28 (9.8%)	52 (12.6%)	
	秋田県	19 (6.6%)	56 (13.6%)	
	岩手県	25 (8.7%)	48 (11.6%)	
	宮崎県	28 (9.8%)	27 (6.5%)	
	福島県	8 (2.8%)	8 (1.9%)	
	群馬県	1 (0.3%)	1 (0.2%)	
	長崎県	1 (0.3%)	1 (0.2%)	
	無回答	2 (0.5%)	---	

N.S.: not significant, 有意差なし

表2 - 1 ニーズに関する調査結果

	受講群 (N=287)	非受講群 (N=413)	p-value
自分について考えたことがある	256 (89.2%)	337 (81.8%)	<0.01
自分のよいところをあげられる	199 (69.6%)	259 (63.3%)	<0.1
自分を理解する方法			
自分の印象を他人に聞く	171 (60.0%)	243 (59.1%)	N.S.
他の人との相違点を考える	163 (57.2%)	223 (54.3%)	N.S.
自分の特徴を考える	150 (52.6%)	204 (49.6%)	N.S.
自分の好きなところを考える	64 (22.5%)	109 (26.5%)	N.S.
その他	7 (2.5%)	13 (3.2%)	N.S.
自分の将来について考えたことがある	275 (96.2%)	390 (94.4%)	N.S.
将来について考える必要性がある	279 (97.6%)	394 (95.6%)	N.S.
将来について具体的に考える方法			
仲間と考える	154 (53.7%)	234 (56.7%)	N.S.
年齢を追って考える	141 (49.1%)	190 (46.0%)	N.S.
他の年齢層の話しを聞く	110 (38.3%)	169 (40.9%)	N.S.
過去・現在・未来で考える	101 (35.2%)	134 (32.4%)	N.S.
その他	8 (2.8%)	6 (1.5%)	N.S.
身体の性とところに性を考えたことがある	127 (44.3%)	159 (38.5%)	N.S.
性のオリエンテーションを知っている	234 (81.8%)	332 (80.4%)	N.S.
性の3つの特質の学習必要性 あり	131 (45.6%)	133 (32.2%)	<0.01
『好き』と『セックスしたい』気持ちの関係			
関係ある	147 (51.4%)	206 (50.0%)	N.S.
関係ない	120 (42.0%)	177 (43.0%)	N.S.
両者は同じことである	14 (4.9%)	17 (4.1%)	N.S.
その他	6 (2.1%)	13 (3.2%)	N.S.
妊娠するかもしれないと考えたことがある	121 (42.9%)	143 (35.3%)	<0.05
妊娠を身近に考える方法			
体験談	179 (62.6%)	273 (66.7%)	N.S.
避妊法を学ぶ	124 (43.4%)	163 (39.9%)	N.S.
妊娠したらどうするかを話し合う	116 (40.6%)	129 (31.5%)	<0.01
講義	73 (25.5%)	11 (27.1%)	N.S.
映画・テレビ	63 (22.0%)	74 (18.1%)	N.S.
統計データ	59 (20.6%)	84 (20.5%)	N.S.
人生設計を立てる	55 (19.2%)	70 (17.1%)	N.S.
本・漫画	52 (18.2%)	76 (18.6%)	N.S.
ビデオ鑑賞	47 (16.4%)	69 (16.9%)	N.S.
パンフレット	36 (12.6%)	54 (13.2%)	N.S.
劇を見て仲間で話し合う	12 (4.2%)	10 (2.4%)	N.S.
その他	3 (1.0%)	5 (1.2%)	N.S.

N.S.: not significant, 有意差なし

表2-2 ニーズに関する調査結果

	受講群 (N=287)	非受講群 (N=413)	p-value
性感染症にかかる可能性があると思う	98 (34.3%)	82 (19.9%)	<0.001
性感染症を身近に感じる方法			
体験談	166 (58.0%)	238 (57.8%)	N.S.
講義	120 (42.0%)	151 (36.7%)	<0.1
コンドームの使用法を学ぶ	99 (34.6%)	122 (29.6%)	<0.1
感染したらどうするかを話し合う	78 (27.3%)	80 (19.4%)	<0.05
統計データ	77 (26.9%)	105 (25.5%)	N.S.
ビデオ鑑賞	70 (24.5%)	111 (26.9%)	N.S.
映画・テレビ	61 (21.3%)	115 (27.9%)	<0.05
本・漫画	52 (18.2%)	86 (20.9%)	N.S.
パンフレット	52 (18.2%)	82 (19.9%)	N.S.
劇を見て仲間と話し合う	18 (6.3%)	17 (4.1%)	N.S.
感染過程をゲーム等で学ぶ	20 (7.0%)	11 (2.7%)	<0.01
その他	0 (0.0%)	2 (0.5%)	N.S.
相手とセックスについて話し合える	112 (39.3%)	132 (32.0%)	<0.01
セックスに関して自分の気持ちを伝えられる	171 (60.0%)	247 (60.0%)	N.S.
セックスについて話し合うのに必要なこと			
相手の話を聴く	146 (51.0%)	187 (45.5%)	<0.1
相手の立場になって考える	140 (49.0%)	161 (39.2%)	<0.01
好きという気持ちについて考える	133 (46.5%)	217 (52.8%)	<0.1
人生について考える	97 (33.9%)	124 (30.2%)	N.S.
自分について考える	91 (31.8%)	134 (32.6%)	N.S.
コミュニケーションスキル	90 (31.5%)	123 (29.9%)	N.S.
相手のよさを認める	51 (17.8%)	80 (19.5%)	N.S.
自信を持つ	33 (11.5%)	61 (14.8%)	N.S.
自分のよさを認める	17 (5.9%)	25 (6.1%)	N.S.
ロールプレイ	10 (3.5%)	7 (1.7%)	N.S.
その他	5 (1.7%)	2 (0.5%)	N.S.
今後学びたい内容			
人間関係づくり	123 (43.0%)	180 (43.6%)	N.S.
自分自身について	100 (35.0%)	166 (40.2%)	<0.1
将来の人生について	100 (35.0%)	144 (34.9%)	N.S.
男女の考え方の違い	99 (34.6%)	124 (30.0%)	N.S.
コミュニケーションスキル	58 (20.3%)	74 (17.9%)	N.S.
他人について知る	50 (17.5%)	68 (16.5%)	N.S.
「好き」と「セックスする」の関係	45 (15.7%)	61 (14.8%)	N.S.
性感染症	35 (12.2%)	42 (10.2%)	N.S.
性のオリエンテーション	28 (9.8%)	33 (8.0%)	N.S.
中絶	25 (8.7%)	28 (6.8%)	N.S.
避妊法	24 (8.4%)	33 (8.0%)	N.S.
緊急避妊法	23 (8.0%)	36 (8.7%)	N.S.
男女の役割	21 (7.3%)	23 (5.6%)	N.S.
妊娠のしくみ	20 (7.0%)	28 (6.8%)	N.S.
セックスに関する意思表示法	20 (7.0%)	29 (7.0%)	N.S.
マスターベーション	15 (5.2%)	11 (2.7%)	<0.1
ピル	14 (4.9%)	24 (5.8%)	N.S.
男女の身体の違い	7 (2.4%)	17 (4.1%)	N.S.
コンドーム	5 (1.7%)	27 (6.5%)	<0.01
その他	3 (1.0%)	6 (1.5%)	N.S.

N.S.: not significant, 有意差なし

男子思春期保健指導のためのマニュアル開発に関する研究

分担研究者 堀江 重郎 帝京大学医学部泌尿器科
研究協力者 熊本 悦明 元札幌医科大学医学部泌尿器科
丸山 修 帝京大学医学部泌尿器科

従来の性教育教科書は性器と性交を中心とした生物学的な知識に偏重しがちで、gender を含めた男性のありかたについての教育が希薄であった。このため、医学研究の内容をふまえた男子思春期ガイドラインの作成を企画した。具体的には、日本泌尿器科学会で指導的な立場にある医師が、ガイドラインに必要と思われる項目について専門的な立場より執筆し、この原稿を基に、分担研究者と性教育に関心があり、現在活動を行っている非医師の有識者が、読者の立場に立って、内容を再構成し、イラストをつけてガイドラインとして教育現場で使用できる形に編集した。

遺伝子医学や生殖内分泌学などの知見を反映したうえで、成人男性としての sex と gender を認識できる内容を目標とした、思春期ガイドラインの概要を決定できたと考える。

キーワード：男子思春期、教育現場のガイドライン、保健指導マニュアル

A. 目的

男子思春期教育は女子の思春期教育に比べて社会意識が低く、低年齢での妊娠、あるいは性感染症に対する教育が十分でなかった。また従来の性教育教科書は性器と性交を中心とした生物学的な知識に偏重しがちで、gender を含めた男性のありかたについての教育が希薄であった。このため、本研究では医学研究の内容をふまえた男子思春期ガイドラインの作成を企画した。

B. 方法

日本泌尿器科学会で指導的立場にある医師が、ガイドラインに必要と思われる項目について専門的な立場から執筆し、この原稿を基に、専門と性教育に関心があり、現

在活動を行っている非医師の有識者が、読者の立場に立って、内容を再構成しイラストをつけてガイドラインとして教育現場で使用できる形に編集した。

C. 結果

添付のごとくガイドラインの概要を決定し、イラスト部分以外が完成した。以下の点を強調することで従来の性教育教科書にない視点を設けた。

- ・男性という sex と gender に男性ホルモンであるテストステロンが大きな影響を与えること
- ・性分化の医学など、最先端の情報をわかりやすく盛り込んだこと
- ・単に道徳的に性交渉や性感染症、妊娠をとらえるのではなく、理論的な内容にしたこと

D. 今後の方向性

イラストを現在作成中であり、その後
peer review を行った後に広く教育現場や
思春期外来で用いていく予定である。

E. 結論

男子思春期ガイドラインを作成する作業
を通じて現在の思春期男性の性教育の問題
点を把握し、学校現場で活用できるマニ
ュアルが必須であることが確認された。

F. 健康危機情報

無 し

G. 研究発表

1. 論文発表

無 し

2. 学会発表

無 し

H. 知的財産権の出願・登録状況

無 し

男子思春期ガイドライン

【なぜ男と女なの？】

選ばれて生まれてきた私たち

高校生のみなさんは、ちょうど思春期の後半にさしかかっています。

男性なら、ひげが生えてきたり、声変わりをしたり、精通も体験しましたね。女性は、身体が丸みをおびてきて、ほとんどの人が生理も始まっていることと思います。

そういった、子どもから大人へと成長する変化を思春期と呼ぶわけですが、なぜ思春期があるのか、真面目に考えてみたことはありますか？

思春期は、大人になるための準備、つまり子どもを作れるようになるための、心と体の準備の時期です。そして、みなさんはその準備の後半にいるわけですから、改めて思春期とはなんなのか、一緒に勉強しましょう。

登場人物

〇〇先生

Aくん

Bさん

●私たちの存在

私たちはお父さんとお母さんという、男と女の組み合わせから生まれました。

そんなの当たり前？ いいえ、そうではありません。

私たち人間も含め、この地球上にある生命のすべての祖先は、40億年前の海の微生物でした。その微生物は、自分自身が細胞分裂することで子孫を増やしてきたのです。

Aくん：相手を探す必要のない細胞分裂のほうが子どもをつくりやすいね。なんで、男と女がいな

いと子どもが生まれなくなったの？

地球環境が常に安定していれば、細胞分裂のほうが簡単でしょうね。でも、地球の環境は変化します。隕石の衝突や火山の爆発、地球は、灼熱の星となったり、氷河期を迎えたりしながら今の姿になりました。そうやって、地球環境が大きく変化したとき、自分自身とまったく同じ遺伝子をもつコピーでは絶滅してしまいます。ですから、違う遺伝子をもつ誰かと混ぜ合わせて、少しずつ違う自分のコピーをつくっておいたほうが安全なのです。そして、男と女ができ、より環境に適応する次の世代を作るというシステムが出来上がりました。

今、地球上には500万種の生物がいるといわれています。海の微生物という一つの生命から、ここまで多様な生物が出来上がった歴史はとても興味深いですね。恐竜の絶滅などはみなさんもよく知っている

と思いますが、40 億年の生命の歴史の中で、適応能力のない種は次々に自然淘汰されて絶滅し、よりよい種だけが生き残ってきました。つまり、私たち人類、一人一人の存在とは、生命 40 億年の進化の歴史の上に成り立つ、選ばれた命なのです。

B さん：私たちが生まれるって、すごいことだったのね。

同じお父さんとお母さんでも、お父さんの数億という数の精子から選ばれた一つと、お母さんの体内に眠る 20 万個の卵子からそのとき選ばれた一つが結びついてあなたが生まれたということも、奇跡的な確率ですよ。もし、違う精子と卵子が出会っていたら、今あなたはいないのですから、生殖の過程からも選ばれた命であることがわかります。かけがえのない自分自身を、大切にしたいですね。

A くん：でも、人間はなんでここまで繁栄したんだろう？

人類が今日の繁栄を築いたのは、環境に対する、高い適応能力があったからです。人類は、4 万年～1 万年前には全世界に数千人しかいませんでした。それが今や 63 億人にも増え、地球上のあらゆる陸地で生活しています。どんな酷寒の地にも、高地にも、あらゆる環境、さまざまな状況に適応して生きてきました。

そうした適応能力は、私たち一人一人の身体にも備わっています。もし今、家庭環境や学校での人間関係などに悩んでいても、人間はどんな環境にも適応できる、そういう力があるんだということを、忘れないでくださいね。

○ ○先生：生命の進化の歴史も、生殖の過程も、私たちが選ばれた命であることを示しているんですよ。

男は女を改造してつくられる

●染色体の違いが男女の性を分ける

私たちは、男か女かのどちらかです。みなさんも、うんと小さい子どもの頃から、自分が男であるか女であることを認識していたでしょう。

では、男と女の違いは何でしょう？

A くん：ペニスのあるのが男で、ないのが女、でしょ？

性器の違いは、いちばんわかりやすい男女の違いです。でも、世の中には、外見だけでは判断できない例もあって、医学的には男であるべき人が、女として生活していることもあるんですよ。

B さん：染色体が違うって聞いたことがあります。XX 型の染色体を持っているのが女で、XY 型を持っているのが男ですよ。

そうですね。ときどき例外もありますが、染色体の違いは男女を分ける大きな要素ですから、少し詳しく説明しましょう。

私たちの身体をつくっている細胞には、46本の染色体があります。これは、それぞれ2本ずつペアをつくっていて、合計で23組のペアとなっています。ペアの片方は父親から、もう片方は母親から受け継いだものです。

女性の染色体は、23組すべて、細胞の形や大きさが似たもの同士がペアになっています。ところが男性の染色体は、22組までは似たもの同士のペアなのですが、残りの1組のペアは大小不ぞろい입니다。この不ぞろいのペアの大きいほうがX染色体、小さいほうがY染色体です。

そして、この不ぞろいのペアのことを「性染色体」といって、XやYの染色体の上に、男女の性を分ける遺伝子が乗っているのです。女性の場合、性染色体も不ぞろいではなくて、XとXがペアになっています。なお、性染色体以外のペアのことは、「常染色体」と呼びます。

つまり、男性は22組の常染色体とXY型の性染色体をもち、女性は22組の常染色体とXX型の性染色体を持っているのです。

Aくん：どうしてそういう違いが出てくるのかな？

●基本形は女、男は改造型

性染色体が男女の性を分けるということを説明しましたが、世の中にはどのようにして男と女が生まれたかという神話や伝説がたくさんあります。

特に有名なのが、聖書の「アダムとイブ」の物語です。

神はまずエデンの園に男アダムをつくり、女イブはアダムの肋骨からつくられました。神は「どの木の実を食べてもいいが、善悪を知る木の実だけは食べちゃいけない」と二人に命じましたが、へびにそそのかされたイブが禁断の木の実を食べ、アダムもイブにもらって食べてしまったのです。とたんに、二人はお互いが裸であることに気づいて恥ずかしくなり、神にエデンの園を追われてしまいました……というお話です。

この物語によれば、まず男がいて、そこから女がつくられる、という順序になっていますが、科学的な真相はまったく逆なのです。

Aくん&Bさん：えっ！ そうなの！？

私たちは母親の胎内に宿った当初は、男女どちらにも発達できる可能性をもっています。そして、自然の成り行きのまま成長すると女になり、男となるには大がかりな改造作業が行われなければなりません。人類に限らず、ほかの哺乳動物のオスとメスも同じです。

「基本形は女、男は女を改造してつくられたもの」といえるでしょう。その仕組みをこれからお話しします。

〇〇先生：私たちがどうやって男や女になったのか、少し専門的なことですが、ぜひ知っておきたいですね。

●性器の性分化（内性器）

男女の性別が分かれる過程を、専門用語では「性分化」といいます。

自然のままでいると女になるものに、何段階もの男になる作業が加えられるのですが、大きく分けると、性器の性分化と脳の性分化があります。

私たちが母親の胎内に宿ったときには、性器に発達する性腺のもとである器官「性腺原基」を備えています。妊娠初期2か月ぐらいまでは、男女ともまったく同じ形をしていて、ちょうど卵の黄身のような髄質部と、白身のような皮質部から成り立っています。

Aくん：人間も最初は鶏の卵みたいなものなんだね。

この卵の、黄身に当たる髄質部が発達すると睾丸になります。逆に、白身に当たる皮質部が発達すると卵巣になるのです。

Bさん：Aくんは黄身が発達して、私は白身が発達したのね。

胎児が親から男になるべき遺伝子をもっている場合には、妊娠8週目頃から、髄質部が発達して、睾丸が形成されます。

睾丸ができたら、そこでつくられる精子を運び出すための、いろいろな器官もつくられなければいけませんね。それらの器官を「男性性管系」といって、睾丸から分泌される男性ホルモンによってつくられていきます。

男性性管系とは、副睾丸、性管、性管膨大部、性のう腺、前立腺のことです。これらは身体の内部にあるので、「内性器」と呼びます。

Aくん：僕の身体の中には、そんなに色んなものが入ってるんだ！

内性器に発達する前の器官、これを原基といいます。性腺原基と同じように、やはり最初は男女とも同じ形をしています。

どのような形かという、後に女性内性器に発達するミューラー氏管と、男性内性器に発達するウォルフ氏管が一对となっているのです。そして、どちらが発達するかで、男女に分けられます。

睾丸から男性ホルモンが分泌されて男性内性器が発達し始めると、睾丸からは別のホルモンも分泌されて、ミューラー氏管を退化させてしまいます。もしも睾丸がなくて男性ホルモンが出なかった場合は、逆にウォルフ氏管がなくなって、ミューラー氏管が女性内性器（卵管、子宮、膣）に発達するのです。

女性の場合は、卵巣から内性器を発達させるホルモンが出るわけではなくて、自然の成り行きに任せていると女性内性器ができあがるのです。

男性内性器が形成されるには、自然のまま放っておくと女性となる器官に男性ホルモンを働きかけて、誘導させる必要があります。

こんなことから、「基本形は女、男は女を改造したもの」ということがわかりますね。

●性器の性分化（外性器）

さあ、身体の中の内性器はできあがりました。

そうしたら次は、出口となる「外性器」もつくられなければなりませんね。

男性の場合は、ペニスと陰のうです。ペニスの内部を走る尿道に男性内性器がつながって、陰のうには睾丸が入ります。

女性の外性器は、膣が開口する陰裂と、陰裂を囲む小陰唇、大陰唇、そしてクリトリスです。

男女それぞれの性器の違いは、言うまでもなく役割が違うからです。男性の外性器は、内性器でつくられた精子を体外に送り出し、女性の膣内へ挿入し、精子を放出して受精させるのに適した形をしています。逆に女性の性器は、精子を受け入れて受精するのに適した形をしているのです。

さきほど、内性器は男性ホルモンの誘導がないと女性内性器に発達するとお話ししましたが、これは外性器も同じです。男性ホルモンの誘導がなければ、女性外性器がつけられます。

Aくん：今度は男性ホルモンはどんな働きかけをするの？

男性ホルモンが男性外性器をつくるように働きかけたとき、まず、女性外性器の陰裂と小陰唇にあたる部分が縫い合わされて、尿道がクリトリスの先端までつくられます。そして、精子を遠くへ放出するために、クリトリスを長く伸ばしてペニスに成長させ、尿道もペニスの先まで伸ばします。さらに、小陰唇の外側にある大陰唇も左右に合わされて、睾丸が入る陰のうにつくりあげられるのです。

Bさん：じゃあ、ペニスはクリトリスから、陰のうは大陰唇からつくられるのね。

●性器を動かすのは脳

さて、それぞれ男性の性器、女性の性器がつけられました。

でも、つくられただけじゃ、まったく意味がありませんね。性器は自分ではまったく活動できない臓器なのです。では、性器を動かすのは、どこでしょう？

Aくん&Bさん：……………？

答えは脳です。性器がそれぞれ男として、女としての機能を発揮するためには、脳からのコントロールがなければなりません。男女の性は下半身にあるのではなくて、脳がすべてを取り仕切っているのです。

睾丸や卵巣を機能させるために働いているのは、脳の視床下部にある「性中枢」という部分です。

Bさん：性中枢はどうやって性器を動かすの？